

國學院大學学術情報リポジトリ

談話室 鳥の名前

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 矢島, 昴, Yajima, Takashi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000096

鳥の名前

矢島 昂

いつも興味深い話題満載の電子メールをくれる、鹿児島に住んでいる年下の友人が、先日ウィキペディアの面白い使い方を教えてくれた。

パソコンを使っている人なら誰でも知っているとおり、ウィキペディアはインターネットからアクセスができる百科辞典で、最大の特徴は様々な言語の版が用意されており、相互にリンクで繋がっていることだ。いま例えば「自由帝国都市」を引いたとして、このページからドイツ語をクリックすれば、即座にドイツ語版の「Freie und Reichsstädte」の項を参照できるようになっているのだ。ウィキペディアの記述は専門家によるとは限らないからか、時々オヤツと思うようなこともあるので、他の言語で書かれたものを即座に参照できるのは、まことにありがたい機能だと常々思っている。

この友人は、本来はドイツ文学の研究者なのだが、写真に関しても高い技能を身につけていて、ヨーロッパの古い街並や教会建築、文化遺産などのプロはだしの写真を撮ってくる人でもある。日本に居る時にもおおよそ身の回りのものならなんでも撮影しているようだが、それも撮り尽くしたのか、しばらく前から鳥の写真を送ってくれるようになった。

鹿児島は筆者の暮らしている川崎よりも、目にすることのできる鳥の種類が遙かに多いようで、毎回目を見張るような写真を楽しませて貰っている。

おそらく日本あるいはアジアにしか居ない鳥の写真をドイツの友人に見せる際に必要だからだろう、今回教えてくれたのは、ドイツに居ない鳥のドイツ語名をウィキペディアで調べることが出来るという情報なのだった。このことは鳥に限らず、ウィキペディアが非常に浩瀚な和独、あるいはその他の言語の辞書として役立つことを意味しているので、まことにありがたい情報なのだが、ついでに、「次のドイツ語の名前は日本のどの鳥のことか？」というクイズがつい

ていて、こちらの方もなかなか面白かったのだ。

まず Japanbrillenvogel 直訳すれば「日本眼鏡鳥」だが、最初に頭に浮かんだのはモズだった。モズは、目の周りが漫画の悪漢に似て、ちょうど黒眼鏡をかけているように黒くなっている。正解はと見ると、これはメジロだった。眼鏡＝サングラスと即座に繋がる筆者の連想には、いささか問題がありそうだった。次の Fulbuterläufer、「川岸を歩く者」はセキレイかチドリか、しかしチドリは海岸ではないかな、などと考えたがイソシギのこと、これは幾分か点数を貰えるかも知れない。お手上げだったのは Orpheusbird。オルフォイスはギリシャの伝説の伶人オルペウスのこと、Bibbix は独和辞典を引くと「ペルシャ・トルコなどの詩歌に登場する鳴鳥の一種」とどんな鳥か全く分からない。英和辞典を引いて初めてこの鳥がナイチンゲールのことだとわかり、はてそれならば鳴き声の特別美しい鳥に違いないとあれこれ考えてみたが、なんとヒヨドリのことなのだった。

ヒヨドリなら家の近くにいくらでも居る。しかしその鳴き声というのは、歌というよりも騒音に近い代物で、オルペウスを名するなど不遜もよい所だ。筋違いだとは思ったが、友人に抗議のメールを送ると、しかしドイツの愛鳥家は日本に来てこの鳥を目にすると感きわまつて涙を浮かべるほどだ、という返事が来た。それに触発されて、この鳥を写真に撮ってよく見ると、灰色の濃淡で身を装い、腹の部分がやや白く頬の所だけ錆朱色の斑点があるなど、地味とはいえないなかなか潇洒な姿をしている。しかし、それで幾分気にならなくなったとはいえるものの、鳴き声がオルペウスの歌に聞こえる筈もない。

自分の国にないものを自国語で言い表す際には、眼前にあるもののように自然に名前が付けられるということは起こりそうもなく、個人の発想が透けて見えるのも稀ではない。オルフォイスビュルビュルと名付けた人の想像の中で、この鳥はどれほど美しい声で囀っていたのだろうか。本人の記述がなければその過程を追跡することは出来ないが、結果からいろいろと考えてみるのは、異文化を理解する上で大きな意味がありそうだった。文化とは結局人々の観念連合の中にあるものなのだから。

(ドイツ文学)